

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成26年3月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300108
法人名	医療法人 愛誠会
事業所名	ふれあいの家 おじゃったもんせ
所在地	鹿児島県曾於市大隅町中之内8842-24 (電話) 099-482-4398
自己評価作成日	平成26年1月

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この地域では、唯一民家を改修型のグループホームで、静かな住宅街に位置している。
介護福祉士の資格取得者が4名配置されている他、同じ法人の訪問看護ステーションとの連携による週1回の健康チェックと24時間のサポート体制や主治医による月2回の定期往診、STやOT必要に応じ訪問等あり、利用者の生活が安心、安全に送れるように専門性の高いチームケアが行われている。現在は、利用者の自立支援にも力を入れ、残存能力を活かし、自分でできる事は自分でして頂くように心がけています。ご家族との連携にも力を入れており、屋外活動や、交流会を開催し交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成8年に開設された大隅地区でも中核的な存在のグループホームである。法人は他にも医療機関や介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどを運営して長年にわたって地域の医療と福祉の一端を担っている。また、職員育成に力を入れており、外部からの実習や見学の受け入れも多い。
当ホームは閑静な住宅地に立地し、民家改造型の落ち着いた趣のある建物で、広い芝生の庭に梅や桜、紅葉、つつじ、椿などの四季折々の花々が植えられ、利用者のアドバイスをもらいながらの家庭菜園もありホームにいながらでも四季を感じることが出来る環境である。
離れていても家族との絆が途切れることのないように、入居時に家族がしてあげたい事を聞きとり、家族の援助計画を作成して家族も共に利用者を支えている。また、3か月ごとの家族面談を実施して本人の状況をより詳しく理解してもらい、家族から意見・要望を聞き出して利用者がより良く生活出来るように話し合っている。外出レクは家族も共に出かけられる企画もあり、霧島や垂水まで足を伸ばして家族にも大変好評である。
活発な利用者が多く、食事時の会話も弾み、仲のいい利用者どうし居室を訪ね合うこともある。常に笑い声が聞かれ大家族の家庭的なグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり一緒に地域生活を楽しむ」という理念をリビングに掲示し、地域の中で利用者様がスタッフと一緒にご自分のペースで安心、安全に生活して頂くという意識を全スタッフが共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえたグループホーム独自の理念を作成している。また、毎年、理念に基づいた目標も設定している。職員会議等で振り返る機会を設け、職員が目につきやすい個所に理念を掲示して常に意識できるようにし、理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区民生委員の方が隣に住んでおられる事から日常的に会話を行っている他、運営推進委員会を通して地域の方々との交流を行っている。4年前より職員が地域の清掃作業に参加している。毎年、8月は、地域の奉仕作業に参加している。	自治会には加入していないが、職員が地域の清掃活動に積極的に参加したり、利用者も日常の散歩でのあいさつや地域行事の見学に出かけるなど地域の一員として交流に努めている。ホームの防災訓練に近隣住民の参加もあり、共に協力体制が築かれている。今後は管理者が自治会の会合にも出席して更に地域との交流に努める意向である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣の方々と日常的に挨拶を行い気軽に立ち寄れる環境作りに努めている。地域の方が参加される運営推進会議の中で高齢者介護、感染予防などの勉強会を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の目的や意義は浸透してきており率直な意見も頂いている。そのことをミーティング等で協議、検討を重ねサービスの向上に努めている。10月の運営推進会議では、火災を想定し避難訓練を実施し地域との連携を確立する事ができている。12月は、クリスマス会及び運営推進会議同時に開催し、利用者、家族地域の協力員との交流を兼ね意見交換など行う。	運営推進会議は2カ月に1回、老人会役員・民生委員・地区福祉アドバイザー・家族・行政等の出席を得て定期的に開催している。防災訓練後に行うこともあり消防署員や近隣住民の参加が得られて安全対策に活かされている。また、参加者を対象として高齢者介護や感染症などの勉強会も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	曾於市G H小規模多機能の会に参加し意見交換を行って。又、サービス提供における不明な点等あった場合は、担当に相談している。	運営推進会議に毎回担当者の出席があり、ホームの実情や取り組みを積極的に伝えている。他にも訪問・相談など共に問題解決に向けて協働して取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し所属ミーティングでの研修や法人主催の研修にも参加している。研修参加者は、内容を報告し職員への周知徹底を図っている。	重要事項説明書に「緊急を待たない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限しません」と明記され、玄関にも「抑制廃止への決意」を掲示して拘束のないケアの実践に取り組んでいる。法人全体で身体拘束委員会が設置されており、ホーム内でも定期的な勉強会を行って禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるように取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で自由な生活を支援している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所属ミーティングにおいて高齢者虐待防止関連法についての勉強会を開催している他、日々の業務の中で虐待にならないかを検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、後見人制度を利用されている利用者はいないが、ミーティングにおいて、権利擁護や後見人制度に関する研修を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用契約、改定時は、御家族様との面談を行い、サービスの内容、利用料、緊急時の対応、利用者情報等十分に説明を行い、納得していただいでから署名捺印を頂いている。必要に応じ、解約など面談にて十分説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつでも気軽に何でも言いやすいような雰囲気作りを心がけており面会や、面談など率直な意見、要望を聞きその内容をカンファレンスにて検討している。いつでも対応できる様に玄関に意見箱も設置している。</p>	<p>重要事項説明書に法人の窓口も明記して外部者に表せる機会を設けている。また、3カ月ごとに家族面談を実施して利用者の状況報告を行い、意見・要望を聞き出すようにしている。他にも日常の面会時や電話連絡時、年2回の家族交流会時なども家族から意見、要望を引き出す機会としている。出された意見・要望については職員間で検討して改善やサービス向上に反映させている</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回開催される、ミーティングの中で検討している。管理者は、事前に担当者と会議打ち合わせを行っている。</p>	<p>毎月、全職員参加のミーティングで意見交換や話し合いを行っている。職員から出された、意見・提案等は業務やサービスの質の向上に反映させている。レベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の能力、実績、勤務状況に合わせ個々にあわせ責任ある業務を任せている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人教育委員会による研修制度が確立されており、職員が積極的に参加できる環境を整えている。又、新入植者に関しては、基本的な介護が習得できるように法人内施設実習を経てから配置となっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>曾於市グループホーム、小規模多機能会に参加し地域の同業者との情報交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人、御家族様への聞き取りによる実態調査を行い、趣味、仕事生活習慣（生活歴）を把握しそれに基づいたケアを心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>十分な実態調査を行い、家族の要望等に基づき、対応、ケアを実践し不安解消に繋がるように心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームでできる支援の中で、本人様が必要な事を考慮して対応を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>理念「ゆっくり、一緒に地域生活を楽しむ」を念頭に置きケアの実践を心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、御家族様への聞き取りによる実態調査を行い、趣味、仕事生活習慣（生活歴）を把握しそれに基づいたケアを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分な実態調査を行い、家族の要望等に基づき、対応、ケアを実践し不安解消に繋がるように心がけている。	利用者の希望やこれまでの生活歴に合わせ馴染みの美容室の継続、お墓参り、一時帰宅、法事など家族の協力をもらいながら共に支援している。また、友人・知人や利用者の出身地の民生委員が訪ねてくることもあり、明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮して、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームでできる支援の中で、本人様が必要な事を考慮して対応を行っている。他の福祉サービス利用検討もしながら行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	理念「ゆっくり、一緒に地域生活を楽しむ」を念頭に置きケアの実践を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を受け持ち制にし日々の生活の中で少しの変化にも気づけるようにし状態観察を行い経過記録、申し送りノートへ記載し情報を共有化しカンファレンスにおいてケアの統一を図っている。	日常の会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報から本人本位に検討している。特に一対一になる居室や入浴の際に聞き出すことが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員からの情報収集やご家族様、本人様との面談を行いバックグラウンドアセスメントを作成し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌を作成する中で、一日の過ごし方や、心身の状態を記録し、現状把握に努め、全職員にメール発信し情報を共有化している。日々の業務の中出を話し合いし、ケアの方向性を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しは3ヶ月に一回評価を行い、それに基づいたカンファレンスによる見直し、変化があった場合は、その都度を行っている。家族面談にて家族の同意を得て検討した内容をプランに随時記載し現状に応じたケアを提供している。	本人の希望と家族がしてあげたい事を聞きとり、家族の援助計画も作成している。毎月の職員間のケアカンファレンスと3か月ごとの家族との個人面談を行い、現状の介護計画についての検討を行っている。生活の活性化に繋がるように残存能力を活かした個々の目標を計画に取り入れている利用者もいるなど個別の介護計画を作成している。日常生活で変化があれば都度見直しを行い、変化がなくても3か月ごとにモニタリングを実施し、見直しに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や、日誌に記載し職員間の情報の共有化を図り、日々のケア提供や、介護計画書に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制があり、週1回訪問看の定期訪問や月2回の往診が行われている。本人や、家族の状況に応じては、通院送迎や臨時の往診依頼等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人保健施設で開催される大きな行事に参加しているほか地区民生委員が運営推進会議に参加して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は、希望に応じて随時対応を行っている。協力病院のほか、眼科受診等入居以前からかかりつけ病院を受診できるようにしており、その際は、家族が同行しているができない場合、緊急時の場合はスタッフが対応している。	ほとんどの利用者が協力医療機関がかかりつけ医となっており、主治医の定期的な往診で健康管理が密に行われている。他科受診についても連携を図って適切な医療が受けられるように支援している。通院は基本は家族であるが、状況に応じてホームでも受診同行を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の地域連携課や訪問看護との連携体制があり24時間いつでも必要な時に看護が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院との連携があり、入退院時にはお互いに情報提供を行っている。又、入院時には、スタッフが定期的に面会に行き、本人様の状況把握、病院側からの情報を元に精神的安定を図り早期退院を目標としている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況に応じて、御家族様、主治医、運営者、管理者、職員と定期的相談が行われており情報の共有化が図られている。又、状態変化があった場合は、その都度話し合いを行い方針の確認が行われている。	重度化や終末期に向けたホームの指針を重要事項説明書に明記して入居時に説明している。入居後は主治医の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルが作成されており職員への周知徹底を行いミーティング等で研修を行っている。又、法人研修にも積極的にさんかしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災マニュアルの周知徹底とミーティングでの研修、年2回避難訓練を実施している。実際の火事を想定し消防署との連携、火災報知機を实际使用している。</p>	<p>年2回夜間想定で避難訓練を行い、他にも毎月自主訓練として通報訓練を行っている。訓練には近隣住民、家族参加も得られており、気づきなど意見をもらい安全対策に活かしている。また、スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に尊厳を持ち接し会話の内容や、言葉使いに気をつけている。個人情報保護に関する法人の研修に参加している。マニュアル等も作成している。	個々に応じた声かけやプライドを損なわないような言葉かけに配慮しながら対応している。法人内研修やホーム内でも機会を捉えては話をして、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話のできる利用者様へレクリエーション参加や自己決定を行えるよう配慮している。又、意志疎通の図れない方々へは、好きな歌や、家族の話をお伝えし表情の変化から思いを汲みとる努力を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のだいたいの流れはあるが、個人の希望する過ごし方をペースを大事にし、安心、安全に過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	イベントや、行事、又本人が希望する際は、化粧を行ったり本人の好まれる色の衣服を御家族様へ依頼している。整容の時間を大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は一人一人に合わせている。又、味付け等にも注意し薄味でだし等で味の調整を行っている。食事は、職員と一緒にできる様にしている。	個々の力量に応じて出来ることは職員と共にやっている。また、菜園の世話やそばうち・もちつき・漬物作りなど利用者のアドバイスをもらいながら行っている。気候のいい時期はテラスでお茶やバーベキューを行ったり、家族も共に外食や弁当持参の花見に出かけることもある。他にも季節に応じて鍋料理・ソーメン流し・かき氷などさまざまな趣向を凝らして「食」が楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表にて食事、水分摂取を記録している。利用者の個人の栄養評価を行い、エンシュア、プロテイン等捕食としている。管理栄養士に年2回評価、栄養指導を行っている。体重測定、血液検査にて必要時Drの指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に声かけを行い状況に応じ一部介助全介助にて毎食後義歯、口腔内洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個人の排泄パターンを把握し身体機能に配慮した援助を行っている。介助、一部介助は自立支援に基づいたトイレ誘導、個々にあったオムツの種類を選択しオムツ交換等を行っている。	身体状況に問題がない限り、日中はトイレでの排せつを支援している。現在自立している利用者も数名おり、維持できるように職員のさりげない声かけや誘導で支援している。心身の状況を見極めて改善を試みるなどして入居後に改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、野菜等繊維物を提供を心がけている。トイレ誘導時は、腹部マッサージを行い便意を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の体調、状況を考え楽しめる入浴となるように支援している。一日の中で入浴の時間をこだわらずタイミングにあった入浴の声をかけを行っている。入浴日以外は足浴など実施している。	基本は週3回を目安としているが個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。ゆず湯や入浴剤で季節と温泉気分を味わったりマッサージ機能付きの足浴器で気持ちいい足浴も実施している。また、外出レクを兼ねて足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活パターンを優先し午後からそれぞれ仮眠時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に管理しファイリングしている。往診時、内服薬変更時は、他職員へ情報を発信し共有化を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に外出、散歩、テラスでのティータイムなどを実施している。利用者個人の生活歴に応じた楽しみを職員と一緒に支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調、状況に応じて散歩や、買い物、友人への面会と一緒にいる他重度の方々もテラスでの日光浴を実施している。	日常的にはテラスでの外気浴や個々の気分や天候に応じて、散歩や買い物、ドライブなどに出かけている。外出レクとして初詣・地域行事見学・果物狩り・外食・弁当持参での花見などに出かけ、毎年家族も共にバス旅行として遠出も行っており、家族に大変喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現金御お金の管理ができるものはないもののおひとりお一人の希望や体調に合わせ買い物など実施している。商品選び、支払い、可能な限りご自分で行っていただいている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	御家族が用意してくださった携帯電話を使い本人自ら電話をかけている方もいらっしゃるが電話対応が難しい方が大半で必要時は、スタッフが家族へ掛けてつなぐようにしている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	事業所内には、家具やソファ等使用し自宅と変わらない雰囲気になるようにしている。共有部分は季節感を感じれるように四季の物を飾ったり思い出の音楽を流したりし工夫を行っている。テラスにて外の光や風に当たりながらお茶、おやつを提供し楽しめるようにしている。	民家改造型の造りは家庭的で生活感や季節感のある共用空間となっている。テラスにもリビングから直接出入り出来るので開放的である。台所もオープンで食事の準備の光景やにおいなど五感を刺激してくれる。庭には桜・紅葉・つつじなど四季折々の花々が植えられ、ホームにいながら四季を感じる事が出来る。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	縁側付きの和室があり希望時には使用出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの家具や衣類のほか家族の写真等多数持ちこまれており使い慣れたものや好みの物を持ちこみ自宅と変わらない雰囲気になるように心がけている。	ソファ・マッサージ機・タンス・お気に入りの飾り物・家族の写真など居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、和室以外は、バリアフリーになっている。手すり、車椅子対応のトイレが設置され、安心、安全な生活環境が維持されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない